

広島別院だより

Vol.35
冬号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

報恩講勤まる

昨年十二月一日・二日、報恩講が勤まりました。講師は栗栖寂人師（たつの市正行寺）です。以下、法話の抄録です。

●伝統と因習

報恩講は親鸞聖人の三十三回忌に始まって以来、七百年以上勤められてきた真宗の伝統である。

「伝統」と似て非なるものに「因習」というものがある。因習は昔からやってきたというだけで、それをなぜするのかという問いは許されない。対して伝統は一人一人が自分自身にとって、なぜそれをするのかという問い返しがある。報恩講は私たちの在り方を問い直し、仏から何を願われているのかを明らかにしていく伝統なのである。

正信偈に「大悲無倦常照我」とある。常に仏に背き続けて生きていく私たちを如来は決して見捨てず、照らし続けているという意味である。仏の慈悲に照らされている私たちが、仏に何を願われているのかを問い返し、訪ねていくのが報恩講の意義なのである。

●仏に背を向けて生きるすがた

部屋を掃除していたら、こんな文章を見つけた。
「親ほど鬱陶しい者はない。
子どもほど厄介な者はない。
夫ほど平凡で薄情な者はない。」



栗栖寂人 師

男ほど自分勝手な者はない。女ほど愚痴っぽい者はない。一番最後に大嫌いな者は自分自身だった。こんなことしか思えない自分自身だった。生きている価値のない自分だと思っていた。それは何の夢も希望もない真つ暗な地獄を這いずり回っているような気持ちだった。死ぬに死なねず、生きるに生きられず、斜に構えた捨てばちの人生。そこに聞こえてきた仏の真言。「汝、わがはからいを超えたいのちを今そこで生きよ」とて、かく生かしめられている我。人間は生きていくだけで尊いのだ。光といのちを蔽ったこの言葉に遇わせていただいて目が覚めた。私がどうこう変わったわけでもないが、それ以降、私の八万四千の煩惱と仲良く付き合っていくけそうな道が見つかりました。それは細い細い道であるが、人様の煩惱とも仲良く付き合っていくけそうな道が見つかりました。それは遠い遠い道のような気もするが、ありがとうございました。南無阿弥陀仏」
(文中、省略箇所あり)

●南無阿弥陀仏の呼び声

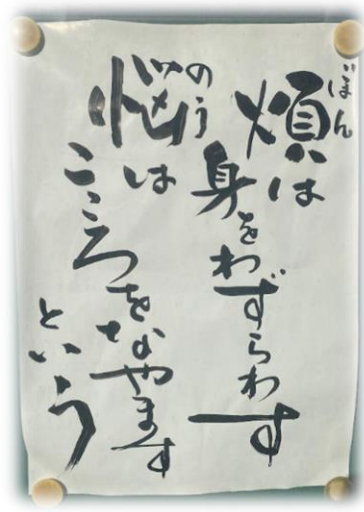
南無阿弥陀仏と念仏を申すということは仏の呼び声を聞くということである。それは「いかに背を向けようとも、決して捨てぬぞ、必ず救うぞ」という仏の呼び声である。念仏申し、その呼び声を聞き続けていく生活の中に我が身を見出してきたのが真宗門徒の歴史である。自ら念仏申し、次の世代に念仏を伝えていくことが私たち真宗門徒の役割であり、生き方ではないか。称える念仏を必ず誰かが聞いている。そのことを念じて、これから共に念仏申していきたいと思う。

お磨きを行いました

昨年、十一月十七日、別院報恩講にむけてお磨きを行いました。安芸南組の寺院、ご門徒を中心に十六名の方に参加をいただきました。磨き上げられた仏具はピカピカになり、十二月の報恩講を気持ちよく迎えることができました。参加のみなさま、有難うございました。



明信院掲示板



親鸞聖人の生涯を辿る

親鸞は九歳の時、叔父の日野範綱に連れられて出家得度したとされています。わずか九歳で出家した理由は諸説ありますが、弟全員も出家しているところをみると、先に父が出家(失踪?)したことなどにより、経済状況が悪化したことが大きな理由かと思われます。

伝説では、得度の時、夜遅く暗かったため、比叡山の座主慈円から得度は次の日にしようと言われてました。その際、親鸞は次のような和歌を詠みました。「明日ありと思ふ心の仇桜夜半に嵐の吹かぬものかは」明日をもしれないわが身であると述べ、慈円は得度をしたとのことでした。

浄土教に念仏を唱え続ける常行三昧という修業があります。一日六回昼夜六時に分けて阿彌陀仏を讃歎し、浄土往生を願いながら禮拜します。その始まりは日没(午後四時)です。夜明けから日没ではなく逆になっています。夜は死の隠喩でもあります。これは今までの自分が死に、新しく念仏を中心とする自分が生まれることを表現しているのです。この親鸞の伝説は仏道修行へのひたむきさだけでなく、俗世の親鸞が九歳にして死に、求道者として生まれ直したことを表現しているのではないのでしょうか。

法座・講座等のお知らせ

3月22日(火)春彼岸会



【講師】 松江 長親 先生 (福山市明圓寺住職)
 【日程】 14:00～勤行と法話 16:30 終了予定

<彼岸とはさとりの世界。昼と夜の時間が等しくなるお彼岸の時節にかたよりのない仏様の教えを聞く聞法会です。>

注)法要期日が緊急事態宣言下になりましたら、内勤めといたします。参詣はご遠慮ください。

4月22日(金)真宗の仏事入門講座



【講師】 近松 誉 先生 (東本願寺本願部部長)
 【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500円

<浄土真宗の仏事について学ぶ講座です。ぜひご参加ください。>

【今後の日程】 6月23日(木)・7月25日(月)

毎月5日 定例法話 (ご今日の集い)

【講師】 県内僧侶(月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話(15:00 終了予定)

<広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。>

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等してコロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。

道場樹

【編集室より】

気が付けば、もう一月中旬。年末は大晦日が！と慌ただしくしていましたが、正月も終わりでドンドン日が過ぎていきます。

今年も長男が成人式。これもまた早いものだ。長男は大学でスキー競技をやっています。成人式前には他県でトレーニングして元気に帰って来る予定でしたが、三日の晩「怪我しました」とメールが。やっちゃん、たかちゃん、複雑な思いをしながら、帰郷路の途中まで迎えに行き、市内の病院へ。翌日MRIを受け「肉離れ」と診断されました。靭帯損傷はなくて良かったと思いつつ、松葉杖で成人式に臨まねばならないなあと思つていたら、コロナ感染拡大により成人式は延期に・・・。入学式の時にスーツを購入しましたが、入学式は中止。成人式で着れば良いかと思つていたら、どうやら筋トレのお陰で育ててにあげたスーツが入らない。新しいスーツを購入しましたが、これもまた着る機会なし。やれやれ、と思いつつながら、北の大地に帰るフェリーを予約して、いざ帰る日に、「天候不良でフェリーが欠航になった」「授業開始に間に合わん」と。もろろ踏んだりの蹴ったりの年明けとなりましたが、当の本人は「まあ、何が起こるか分からんってことよ。受けとめよう。」と。大人びた発言で少し嬉しくなりました。

(G・M)

